

昆虫類

トンボ類 31種が記録されています。新川はウチワヤンマ、ギンヤンマ、コシアクトンボが、桑納川はギンヤンマがよく見られます。数が少ないトンボとしてはムスジイトンボ、アオイトンボ、カトリヤンマ、ハラピロトンボなどです。トンボの生息地としては保品の間谷谷津が良い環境です。



カトリヤンマ〔ヤンマ科〕
中形のヤンマで、昼間は林の中において、夕方から林や水田のまわりで昆虫類を食べます。カトリは「蚊を取る」の意味です。

ハチ類 新川流域の調査で308種記録されています。市内全ての地域ではその2倍はいると推定されます。この中で今回の調査によって千葉県で初めて記録されたものはイシイアシブトコバチ、コウノスジガバチモドキなど20種以上があります。



シロスジケアシハナバチ
〔ケアシハナバチ科〕
シロスジケアシハナバチとも呼ばれています。体長は約13mmで、メスの後足の花粉をつける毛が柔らかな筆状になっているのが特徴です。



キボシトックリバチ
〔ドロバチ科〕
体長は約13-17mmです。背の2か所にそれぞれ左右2つの黄色いもようがあるのが特徴です。メスは木の枝などに泥と唾液で丸いトックリ形の巣をつくり、その中に1個産卵します。ガの幼虫を捕らえ、毒針で麻酔して巣の中に入れ、泥でふたをします。ふ化した幼虫はガの幼虫を食べサナギをへてハチに成長します。

ガ類 766種が記録されています。ガは嫌いという人も多いのですが、やはり自然の一員です。たくさんの種類が見られます。しかし、近ごろガも減ってきています。ハイイロボクトウ、ウスミミモンキリガ、オオチャバネヨトウ、ギンモンアカヨトウなどは少なくなっている種です。



ウスミミモンキリガ〔ヤガ科〕
成虫は10月ごろ羽化し、冬を越します。灯火には飛来しません。ハンノキ林で生息していますが、埋め立てや農薬散布の影響などが心配されます。



オオチャバネヨトウ〔ヤガ科〕
幼虫はガマの茎内に入り、成虫は7~8月に出現し、灯火に飛来します。湿地に生息しています。生息地の減少や生息環境の悪化が心配されます。

チョウ類 52種が記録されています。雑木林や低地のやぶのように草が茂った休耕田に多く生息します。代表的なところとして、吉橋の石神谷津があり、ここには市内のチョウの90%は生息していると考えられます。



ウラナミアカシジミ
〔シジミチョウ科〕
小形のチョウ。羽はメス・オスとも黄橙色で、羽の裏側には濃い赤かっ色の不規則なはん点が多くあります。幼虫は主にクヌギの葉を食べます。

コウチュウ類 588種が記録されました。市街地のコウチュウ（甲虫）の特徴は、大形種が少なく、また、池や大きな湿地がないため、水生昆虫も大形種が少ないようです。



タマムシ〔タマムシ科〕
光沢のある青緑色に2本の赤むらさき色の縦じまがある美しいコウチュウです。幼虫の食樹のエノキやケヤキの老木が減ったため、タマムシも減ってきています。

調査報告書より

トンボ類：キイトンボ、アオモンイトンボ、アジアイトンボ、クロイトンボ、オオイトンボ、ムスジイトンボ、アオイトンボ、オオアオイトンボ、ホソミオツネントンボ、ハグロトンボ、ウチワヤンマ、オニヤンマ ほか
ハチ類：ヒメハラナガツチバチ、アトボシキタドロバチ、オオフタオビドロバチ、フタモンアシナガバチ、コアシナガバチ、クロアナバチ、コクロアナバチ、キゴシジガバチ、アシブトムカシハナバチ、アカガネコハナバチ、ズマルコハナバチ ほか
ガ類：フサヒゲオビキリガ、アカスジアオリンガ、タカオシャチホコ、ウスミミモンキリガ、オビヒトリ、クワゴマダラヒトリ、ノヒラキヨトウ、ナカスジキヨトウ、オオチャバネヨトウ ほか
チョウ類：アゲハ、キアゲハ、クローアゲハ、カラスアゲハ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、ツマキチョウ、キチョウ、モンキチョウ、ダイミョウセセリ、コチャバネセセリ、チャバネセセリ、ミヤマチャバネセセリ ほか
コウチュウ類：トウキョウヒメハンミョウ、アオオサムシ、ヒメマイマイカブリ、マメゲンゴロウ、ノコギリクワガタ、センチコガネ、カブトムシ、タマムシ、ハイケボタル ほか